

より良い環境を次の世代へ

「水辺環境の保全」

環境基本計画 ⑥

環境基本計画に掲げた目標の実現に向けた取組みを紹介しています。今回は、「たくさんの生きものが生息・生育する川や海などの水辺環境の保全」について説明します。

《問合せ》コウノトリ共生課環境政策係 ☎21・9017

円山川や竹野浜をはじめ、

豊岡にはさまざまな水辺があります。かつては、近くの川で子どもたちが遊び、泳ぐことができました。また、川や海辺には、多くの生きものが生息・生育していました。

しかし、生活様式の変化等により、水質は悪化し、ポイ捨てや不法投棄など、ごみをきちんと処理しないことが、川沿いや海岸の漂着ごみを増やし、水辺の環境を悪化させていきました。

近年、下水道の整備が進み、水質は改善されつつありますが、川や海は、昔の姿には戻っていません。

私たちの暮らしに欠かせない水は、川を水源としています。おいしくいたでている魚は川や海にすんでい



ます。

水辺環境を保全することは、たくさんの生きものを守るとともに、私たち人間が生きていく上でとても大切です。

「ちよつとでも」できることに取り組みましょう。



節水に努め、家庭排水や事業所の排水は下水道に接続し、水路などに直接流さないようにしましょう。

地域等で行われる川岸や海辺の清掃活動に積極的に参加しましょう。

川や海、また川や海につながる水路等にごみを捨てないようにしましょう。たくさんの生きものが生きていける水辺環境の保全に協力しましょう。

環境あれこれ

17

生ごみと嫌な臭い

環境に関する問題について、市の取組みなどをシリーズでお知らせします。

《問合せ》生活環境課生活環境係 ☎23・5304

生ごみは、一般には家庭から排出される野菜くずのような調理かすや残飯などで腐敗します。



かつては、し尿とともに、堆肥に混ぜたり、庭や空き地に埋めたりして処分されていました。

生ごみは、放置したり管理が悪いと悪臭が発生したり、カラス・ネズミ・ハエ・ゴキブリといった病原害虫・害獣の発生源、あるいは野良猫などの誘引源となるため、行政が回収して焼却処分を行うようになりました。

先進国では、インスタント食品や冷凍食品・レトルト食品などの調理済みの食品や加工食品が、一般家庭や喫茶店など準飲食店、あるいはファーストフードやファミリールーランのような集中調理を行う

飲食店チェーンで利用される場合が増えてきました。

このため、野菜くずや魚の骨といった調理に絡む生ごみは減少していますが、逆にそれら食品を製造する食品加工工場などから排出される食品廃材の量は増加する傾向にあります。



くくなるため、酸素が嫌いな微生物たち(嫌気性微生物)が生ごみを分解し始め、悪臭を出します。また合わせて熱も発生します。

一方で、酸素が好きな微生物たち(好気性微生物)が働く環境では、悪臭はほとんど発生しないといわれています。

いずれの微生物も、乾燥気味になると活動は鈍くなり、水気のない所では休眠します。

しかし、水分が多いと腐敗が始まり、ある温度以上になると、微生物の働きがより活発になり、分解が早まる傾向があります。



なぜ、水分が多いと悪臭がでるの？

水分が多いと悪臭が出るのはなぜでしょうか。それは、酸素と水分と温度が関係します。生ごみは、その80%以上が水分といわれています。水分が多いと空気が通りに

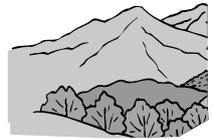
悪臭の主な成分は、アンモニア(トイレの臭い)、尿、汗、体臭などの臭いの主な成分)硫化水素(卵が腐ったような臭い)、メチルメルカプタン(タマネギが腐ったような臭い)トリメチルアミン(腐った魚のような生臭いニオイ)などで、それらが複雑に混じって悪臭の原因物質となります。

これから、気温が高くなり、臭いが気になる季節です。生ごみから嫌な臭いを出さないためにも、十分水分を切ってからごみ袋に入れましょう。

市民環境大学の開催

受講生を募集します

豊岡市は、面積の約8割を森林が占めています。近年、森林の環境も変化し、さまざまな問題が生じています。今年度は、兵庫県森林動物研究センターの協力を得て、「森林の保全と野生動物」について、6回の講座を開催します。「なぜ、シカやイノシシが人里に出てくるの？」などの身近な問題をきっかけに、森林の保全について勉強しましょう。皆さん、ぜひ、受講ください。



開催日	講義のテーマ	講師
8月3日(日)	人の暮らしと野生動物の生態の関わり -なぜ野生動物問題が起こるのか?-	兵庫県森林動物研究センター 研究部長 室山泰之さん 研究員 藤木大介さん 研究員 鈴木克哉さん 主任研究員 坂田宏志さん 主任研究員 横山真弓さん
8月31日(日)	森林環境の変遷と野生動物 -いかに森林を管理していくべきか?-	
10月13日(月・祝)	里山ウォッチング (市内の里山の現状確認)	
11月16日(日)	農業集落の現状と防除 -農業被害はどうしたら防げるか?-	
12月14日(日)	生態系を保全していく努力 -ツキノワグマと外来生物の現状-	
1月18日(日)	・野生動物を地域の資源として活かそう ・意見交換会	

開催日、講義のテーマ、講師は変更する場合があります。

時間 午後1時30分～4時
 場所 市民会館など
 対象者 市内在住または在勤の方
 定員 40人(先着順)
 受講料 年額 3,000円
 申込方法 コウノトリ共生課、各総合支所
 市民生活課または市ホームページにある申込書に必要事項を記

入の上、申し込みください(郵送、ファックス、電子メール可)。
 申込期間 7月1日(火)～22日(火)
 《申込み・問合せ》
 コウノトリ共生課環境政策係
 ☎21-9017 FAX24-8101
 メールアドレス
 kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

書の美に見る豊岡の巨匠(下)

「森田子龍の世界」

書の美に見る豊岡の巨匠について、美術評論家の田宮文平さんに評論をいただき、3回シリーズで紹介しています。今回は最終回です。《問合せ》文化振興課 ☎23・1160

森田子龍(本名清)は、明治45(1912)年、豊岡市上陰に生まれた。「子龍」の雅号は、五荘第一小学校時代の恩師の吉川 勇から聞いた新井白石の龍の話から「自分はまだ子どもの龍にすぎない」と思っ

て付けたという。旧制豊岡中学校時代には、多田徳助校長から目をかけられ、卒業後、神戸三中に職を得る機縁ともなった。この神戸時代に書道講習会で、近代書の巨匠の上田桑鳩(三田市出身)に出会うのである。

桑鳩師は、昭和戦前期に現代には現代の書がなければならぬ」と書道革新の狼煙をあげた人である。その薫陶を受けて、森田子龍は戦後、「書の美」誌に未知の書表現を体験する部を設けて研究した。さらに昭和26(1951)年には、「墨美」誌を創刊、当時、



作品「龍知龍」